

景観の創造と神話・儀礼の創作：インカ帝国の首都クスコをめぐって

著者	坂井 正人
雑誌名	国立民族学博物館調査報告
巻	55
ページ	49-63
発行年	2005-05-30
URL	http://doi.org/10.15021/00001659

景観の創造と神話・儀礼の創作

——インカ帝国の首都クスコをめぐる——

坂井 正人

山形大学人文学部

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1. はじめに | 5. 景観構造と山 |
| 2. クスコの景観構造 | 6. 豊穡と王権 |
| 3. 聖なる山 | 7. 景観・神話・儀礼 |
| 4. 太陽神殿コリカンチャの設定方法 | 8. おわりに |

1. はじめに

本論文では、インカ帝国の首都クスコの景観を取り上げ、その形成過程に注目したいと思う。ここで取り上げる景観は、単なる自然の景観ではなく、社会秩序や人間関係を再生産する場である社会的な景観だ。

先行研究では、クスコにおける社会的な景観とその機能について検討されている。植民地時代の記録を分析することによって明らかになったのは、クスコの景観が組織的に分割され、分割された空間には序列が与えられたことである。また、序列化された空間の管理は、インカの親族体系に基づいて決定されたと言われている (Zuidema 1964, 1990b)。この景観の構造はインカ王家の起源神話に示され (Urton 1990)、起源神話はインカ王によって主催された豊穡儀礼 (Bauer 1996) やエリート層の成人儀礼 (Sarmiento 1988[1572]: 57) によって再現された。つまりインカのエリート層は、景観・神話・儀礼によって、自己の支配体制の正当化を計ったのである。

しかしこれらの先行研究では、クスコの景観があたかも所与のものとして扱われ、その形成過程については十分に考慮されていない。また同様のことが、起源神話と儀礼についても言える。

そこで本論文では、社会的景観がクスコで形成されたプロセスについて明らかにした上で、このプロセスに伴って、起源神話や儀礼がどのようにして創作されたのかについて考察したい。

起源神話の創作を扱うことは、インカにおける歴史意識の形成過程を議論することになる。文字を持たなかったインカには、いわゆる歴史は存在しない。しかし過去と現在を結びつける歴史意識は、インカの起源神話において、王権の正当化という形で如実に現れている。

2. クスコの景観構造

インカの首都クスコは組織的に分割され、分割された空間には序列が与えられた(図1)。まずクスコは大きく南北に分割され、北部はアナン・クスコ(Hanan Cusco)地区と呼ばれ、南部のウリン・クスコ(Hurin Cusco)地区よりも上位に位置づけられた。北部のアナン・クスコ地区は、さらに東西に細分され、西側のチンチャイ・スーユ(Chinchaysuyu)地区が、東側のアンティ・スーユ(Antisuyu)地区よりも上位を占めた。一方、南部のウリン・クスコ地区も東西に細分され、東側のコリヤ・スーユ(Collasuyu)地区が、西側のクンティ・スーユ(Cuntisuyu)地区よりも上位に位置づけられた。つまり4つのスーユ(Suyu)地区は、北西から時計回りに、チンチャイ・スーユ、アンティ・スーユ、コリヤ・スーユ、クンティ・スーユという順番で分布し、この順番で上位から下位に序列化されたのである。

4つに区分されたクスコの中心を占めたのは、太陽神殿コリカンチャ(Coricancha)である。ただしクスコの中心と言っても、コリカンチャ神殿が占めたのは景観構造上の中心にすぎない。この神殿が建てられたのはクスコの南東部であり、クスコ中心部に建設されたのはアウカイ・パタ(Haucaypata)広場とクシ・パタ(Cusipata)広場である(図2)。この2つの広場の間には、ワタナイ(Huatanay)川、別名サピ(Sapi)川が流れている。この川は、その支流であるトゥルマーヨ(Tullumayo)川と、コリカンチャ神殿付近で合流する。この2つの川にはさまれた地区が、クスコの中核地域であり、ここには王宮、神殿、広場などの主要建築物があった。

クスコの景観は、コリカンチャ神殿から放射状に広がる直線によって、さらに細かく分割された(図1)。この放射状直線はセケ(Ceque)と呼ばれ、全部で42本(もしくは41本)あった。そのうち27本は、チンチャイ・スーユ、アンティ・スーユ、コリヤ・スーユに、それぞれ9本ずつ割り当てられ、残り15本(もしくは14本)はクンティ・スーユに割り当てられたのである。ただし、これらの放射状直線は、実際に地面に描かれたのではなく、クスコおよびその周辺部にあった礼拝所を結んだ想像上の線に過ぎない。礼拝所はワカ(Huaca)と呼ばれ、聖なる泉、岩、神殿によって構成され、全部で300カ所以上あった。

礼拝所を結んだ線は、直線だと考えられていたが、近年の調査によって、必ずしも直線ではなく、左右にジグザグと折れ曲がる線であることが明らかになった(Bauer 1998)(図3)。

この特異な景観がインカの首都クスコに存在したことは、植民地時代の記録(Albormoz 1989 [ca.1582]; Cobo 1956 [1653]; Polo de Ondegardo 1916, 1917, 1940 [1561])からも明らかである。これらの記録文書を利用して、クスコの景観の実態と機能に関する研究が、これまで進められてきた(Bauer 1996, 1998, 2004; Rowe 1985; Sherbondy 1982; Urton 1990; Van de

Guchte 1990; Zuidema 1964, 1989, 1990a, 1990b)。しかしクスコの景観の中心を占めるコリカンチャ神殿が、どのようにして設定されたのかについては、まったく議論されてこなかった。そこで次節以降では、コリカンチャ神殿の設定方法について検討することによって、クスコの景観の詳細について考察する。

コリカンチャ神殿の設定方法を考える上で、本論文では、クスコ周辺の聖なる山の配置に注目したい。なぜならば、インカ以前のアンデス諸社会の都市や神殿の中には、周囲の山の配置に基づいて設計されたものが含まれているからである（坂井 1996, 1997, 2003; Sakai 1998）。

3. 聖なる山

今日、クスコ周辺には、聖なる山がいくつもあるが、ここではインカ時代に注目された6つの山について検討する。それはアウサンガテ (Ausangate) 山、ワナカウリ (Huanacauri) 山、アナワルケ (Anahuarque) 山、ピチュ (Picchu) 山、ムユ・ウルコ (Muyu Urco) 山、カトゥンケ (Catunque) 山である (図4)¹⁾。

このうちクスコ市街地の近郊にあるのは、ピチュ山 (標高3765m) とムユ・ウルコ山 (標高3525m) である。一方、クスコ谷の周辺部にあるのが、ワナカウリ山 (標高4089m)、アナワルケ山 (標高4010m)、カトゥンケ山 (標高4200m) で、どれも4000m級の山である。

そしてクスコ谷の外側にあるのが、この一帯でもひとときわ高いアウサンガテ山 (標高6384m) である。この山の頂上にある万年雪は、85kmも離れたクスコ市街地からでも肉眼で観測することが出来る。この山の方向は、クスコの主要水源であるワタナイ川の下流方向と一致する。この川によって谷は切られ、視界を妨げるものがないため、遠く離れたアウサンガテ山をクスコから見る事ができる。

これらの聖なる山に関して、神話や儀礼が報告されている。まず、アウサンガテ山とワナカウリ山に関する起源神話について検討しよう。

アウサンガテ山は、創造主ビラコチャ (Viracocha) が、クスコ谷に向かう途中で立ち寄った山と考えられている。ベタンソス (Juan de Betanzos) によると、創造主ビラコチャは、ティアワナコからクスコ谷に向かう途中で、ウルコス地方の高い山に登ったとされている。この山の頂上に座った創造主は、地下にいた人間たちに対して、山の頂から地上に出てくるように命じた。この時、地上に出てきたのが、ウルコス地方の人々の祖先である。そこでこの地方の人々は、この山に創造主の偶像を立て、立派な神殿を建設したと言われている (Betanzos 1987 [1551-7]: 13-15)。この山の名前をベタンソスは明記していないが、ウルコス地方ではアウサンガテの神殿が崇拜され、そこに偶像が立っていたという記録があるので (Cieza de León 1995 [1553]: 268)、起源神話に登場する山はアウサン

ガテ山であると推定されている (MacCormack 1991: 96)。

一方、ワナカウリ山は、初代インカ王がクスコに入る直前に立ち寄った場所として、インカの起源神話に登場する (Sarmiento 1988 [1572]: 56-57)。初代インカ王は、兄弟姉妹とともに地下から出現し、その後、肥沃な土地を求めて旅に出た。ある日、クスコ谷を見渡すことができるワナカウリ山に登り、虹が架かっているのを見て、これを良い啓示と考えた。その後、一行は下山してクスコ谷に入り、町を作った。この町が、インカ帝国の首都クスコである。

以上の起源神話より、創造主ピラコチャはアウサンガテ山からクスコに入り、初代インカ王はワナカウリ山からクスコに入ったという対比を見出すことができる。

次に、インカのエリート層の成人儀礼ワラチコ (Huarachico) に登場する3つの山、ワナカウリ山、アナワルケ山、ピチュ山について検討してみよう。これから成人するインカ族の少年たちは、この3つの山で儀礼を行い、試練に耐えることを要求された。ワナカウリ山、アナワルケ山、ピチュ山の順番で訪れるが、このうちワナカウリ山とピチュ山では、成人男性としての地位を示す投石具と装身具が授与された。特にピチュ山では、インカ王から直接授与された (Betanzos 1987 [1551-7]: 66-67; Cieza de León 1985 [1554]: 18-19; Molina 1989 [ca.1575]: 98-110)。

ワナカウリ山とピチュ山は、どちらも王家の祖先に因んだ場所であることが、起源神話で示されている。ワナカウリ山には、石に変身した初代王の兄弟がいて、インカ族を守護していたと、起源神話にある (Sarmiento 1988 [1572]: 56-57; Cobo 1956 [1653]: 52)。一方、ピチュ山にもアプ・ヤウイラ (Apu Yaurira) と呼ばれる岩があり、この岩は初代インカ王と共に地下から出現した人物が変身したものとされている (Cobo 1956 [1653]: 31; c.f. Cieza de León 1985 [1554]: 15)。

ムユ・ウルコ山は、クスコの主要な水源であるワタナイ川の上流にそびえる円錐形の山である。この山に、雑穀キヌアの根を意味する「カピ」と呼ばれる礼拝所がインカ時代には存在し、この根からクスコの町が生まれたと信じられた (Cobo 1956 [1653]: 25)。

カトゥンケ山はクスコの北にある山で、この山の麓にタンボマチャイ (Tambomachay) と呼ばれる洞穴がある。この洞穴の前にはインカ時代に建てられた基壇があり、ここからクスコの谷がよく見える。この洞穴は、霧の住処だとインカ時代に信じられていた。そこで霧が農作物に被害を与えないように、この洞穴で供犠が行われた (Cobo 1956 [1653]: 14-15)。

4. 太陽神殿コリカンチャの設定方法

以上の6つの聖山のうち、4つの聖山が、コリカンチャ神殿を設定する際に基準として用いられたと考えられる。4つの聖山とは、ムユ・ウルコ山、ワナカウリ山、ピチュ山、

アウサンガテ山である。ムユ・ウルコ山は、首都クスコの北西にあり、ワナカウリ山は南東にある。一方、ピチュ山は西北西にあり、アウサンガテ山は東南東にある。これらの山とコリカンチャ神殿の配置を、地図上で検討したところ、コリカンチャ神殿が建設された場所は、ムユ・ウルコ山とワナカウリ山を結んだ直線が、ピチュ山とアウサンガテ山を結んだ直線と交差する地点であることが判明した。つまり4つの山の交点に、コリカンチャ神殿が建てられたことになる(図4)。

以下では、この結論に至った作業プロセスを明らかにしたい。

この作業にあたって、まず3つの地図を用いた。一つ目は、クスコ市街地の地図(Instituto Geográfico Nacional del Perú 1996)で、縮尺は1万分の1である。この地図には、クスコ近郊にあるムユ・ウルコ山とピチュ山が含まれる。二つ目は、2万5千分の1の地図(Instituto Geográfico Nacional del Perú 1973: 28s-IV NO)で、クスコ谷全域をカバーする。ここにはワナカウリ山が含まれる。三つ目は、10万分の1の地図(Instituto Geográfico Nacional del Perú 1984: 28-s, t)で、クスコ市街地から85km離れたアウサンガテ山が含まれる。

これらの地図を合成することで、コリカンチャ神殿が、4つの聖山の交点にあることが確認できた。精度について言えば、もしコリカンチャ神殿の位置が、今の場所から50mずれていた場合、この神殿は地図の上で4つの山の交点にはならない。この事実は、地図を用いた作業が、この種の分析に耐えうるだけの精度を持っていることを傍証している。ただし現地における測量作業によって、この配置を確認する必要がある。

地図を用いることで山の配置は分かる。しかし、これらの山を、コリカンチャ神殿から肉眼で観測できるかどうかは、地図では分からない。この点を確認するため、現地調査を実施したが、現代の建物が視界の妨げになり、うまくいかなかった。そこで、コリカンチャ神殿の上に植民地時代に建てられた、サント・ドミンゴ教会の塔に登って観測したところ、4つの山は肉眼で見えることが確認できた。

以上の検討によって、4つの山の交点にコリカンチャ神殿を建設する際に、肉眼による観測が行われた可能性は高いと思う。しかし、地図を持たなかったインカの人々が、どのようにしてコリカンチャ神殿を設定したのかについては、もう少し検討する必要がある。

コリカンチャ神殿を設定する際に用いられた4つの山のうち、2つの山——ムユ・ウルコ山とアウサンガテ山——は、クスコの主要水源であるワタナイ川の上流と下流にそびえる山である。また、ワタナイ川とその支流であるトゥルマーヨ川が合流する地点の近くに、コリカンチャ神殿は建っている。そこで、コリカンチャ神殿を設定する際に、インカの人々はワタナイ川に注目し、この川とコリカンチャ神殿の間に密接な関係を築こうとしたのだと思う。

では、コリカンチャ神殿を設定する際に用いられた、残りの2つの山——ワナカウリ山とピチュ山——は、どのようにして選ばれたのだろうか。結論を先取りすれば、この

2つの山は、ムユ・ウルコ山とアウサンガテ山を基準にして選ばれた、と考えられる。

コリカンチャ神殿は、ムユ・ウルコ山とワナカウリ山の間に建っているため、この神殿からムユ・ウルコ山を観測すると、ワナカウリ山は観測者の背後にそびえていることになる。またこの神殿は、ピチュ山とアウサンガテ山の間に位置するので、ここからアウサンガテ山を観測すると、背後にピチュ山がそびえていることになる。つまり、ワナカウリ山とピチュ山は、ムユ・ウルコ山とアウサンガテ山を基準にして、そこから180度ずらした方向にそびえていることになる。

以上の点を考慮して、コリカンチャ神殿が設定されたプロセスを復元すると、次のようになる。

- (1) クスコの主要水源であるワタナイ川に注目する。
- (2) ワタナイ川の上流と下流にあるムユ・ウルコ山とアウサンガテ山を、コリカンチャ神殿を設定する際の基準として選択する。

コリカンチャ神殿の建設候補地として、ワタナイ川とトゥルマーヨ川が合流する地点付近を選択する。

- (3) ワタナイ川とトゥルマーヨ川の合流地点から、ムユ・ウルコ山とアウサンガテ山を観測する。
- (4) ムユ・ウルコ山とアウサンガテ山を正面に見て、観測者の背後にそびえる山を周囲から探す。
- (5) ほぼこの方向にあるワナカウリ山とピチュ山を、コリカンチャ神殿を設定する際の基準として選択する。
- (6) ワタナイ川とトゥルマーヨ川の合流地点付近を歩きまわり、ムユ・ウルコ山とアウサンガテ山を正面に見た場合、観測者のちょうど背後にワナカウリ山とピチュ山が観測できる場所を探す。
- (7) その場所に、コリカンチャ神殿を建設する。

なぜ、観測者の背後にそびえる山が選択されたのだろうか。この選択には、コリカンチャ神殿の中心性を高めるという意図があったと考えられる。つまり、この選択によって、観測者の正面にある山が背後の山と結びつけられ、その結果、4つの山を結んだ2本の直線がクスコに設定される。そして、2本の直線の交点にコリカンチャ神殿を建築することで、この神殿の中心性を誇示することが可能となるのである²⁾。

5. 景観構造と山

クスコの景観の特徴である二分割構造（アナン・クスコ地区とウリン・クスコ地区）および四分割構造（4つのスーユ地区）は、どのようにして設定されたのだろうか。先行

研究では、スペイン植民地時代の行政文書に記載された、クスコ近郊の集落とその所属スーユに関するリスト (Espinoza Soriano 1977) が注目され、このリストに基づいて、2つのクスコ地区の境界および4つのスーユ地区の境界がどこに設定されたのかについて議論された。その結果、これらの境界は、川 (Zuidema and Poole 1982) や山 (Pärssinen 1992: 242) と密接な関係にあることが主張された。しかしその後、インカ期の礼拝所の分布 (Bauer 1998) が明らかになると、植民地期の集落の分布に基づく境界とは、必ずしも対応しないことが判明した。

前節で明らかにしたように、コリカンチャ神殿を設定する際の基準として、クスコ周辺の聖なる山が用いられた。そこで、クスコに二分割構造および四分割構造を設定するときにも、これらの聖山が基準として用いられた可能性は高いと思う。

クスコは、北部のアナン・クスコ地区と南部のウリン・クスコ地区に分かれる。礼拝所の分布を検討したところ、両地区の境界に接して、コリカンチャ神殿を設定する際に用いられた、アウサンガテ山とピチュ山がそびえていることが判明した (図5)³⁾。そこで、両山は、クスコを南北に分割する際の基準であったと考えられる。

クスコの北部地区であったアナン・クスコは、アンティ・スーユ地区とチンチャイ・スーユ地区に細分される。両スーユ地区の境界に接して、クスコ周辺の聖山のひとつであるカトゥンケ山がそびえている。一方、クスコの南部地区であるウリン・クスコは、コリヤ・スーユ地区とクンティ・スーユ地区に細分され、両スーユ地区の境界に接して、クスコ周辺の聖山のひとつであるアナワルケ山がそびえている。

つまり、クスコの景観は、コリカンチャ神殿を設定するときに用いられた聖山——アウサンガテ山とピチュ山——によって、アナン・クスコとウリン・クスコに二分され、これらの山にカトゥンケ山とアナワルケ山を付け加えることで、四つのスーユに分割されたのである。

6. 豊穡と王権

これまでの議論で、コリカンチャ神殿およびクスコの分割構造は、聖なる山の配置を基準に設定されたことが明らかになった。

これらの山々のうちムユ・ウルコ山とアウサンガテ山は、クスコの主要な水源であるワタナイ川の上流と下流にそびえる山である。農耕がインカにおける重要な生業であったことを考えると、ムユ・ウルコ山とアウサンガテ山という二つの山が、クスコの景観の中心であるコリカンチャ神殿を設定する際に、基準として用いられたことはうなずける。豊穡のイメージをクスコの景観において表現するために、この二つの山が用いられたのであろう。

一方、ワナカウリ山とピチュ山は、インカ王家の起源神話および成人儀礼に登場する。

この二つの山も、コリカンチャ神殿を設定する際に基準として用いられた。そこで、インカの王権のイメージを、クスコの景観において表現するために、この二つの山は用いられたのであろう。

以上の4つの山が交わる場所に、コリカンチャ神殿は建設された。この神殿は、クスコの景観の中心を占める。そこで、この場所に豊穡と王権のイメージを重ねたのは、豊穡をもたらす存在としての王権を、クスコの景観において演出する目的があったと思われる。この演出によって、クスコの景観はより社会的な性格を強め、王権を正当化する装置として機能するようになったのであろう。

豊穡と王権を結びつけることが、インカの関心事であったことは、豊穡儀礼の分析(Bauer 1996)にも示されている。この分析によって、王が主催する豊穡儀礼は、インカの起源神話を再現したものであり、それによって王権の正当化が計られたことが明らかになった。つまり、起源神話に登場する主人公はインカ王の祖先であり、王の祖先が栽培植物であるトウモロコシをクスコに持参し、それを播種したおかげでこの社会が成立した、という認識が起源神話において示されているのである。インカ王は、祖先が行った播種という行為を豊穡儀礼において再現することによって、この認識を社会的に共有させることで、自己の王権の正当化を計ったというのである。

7. 景観・神話・儀礼

社会的景観が首都クスコで創造されるプロセスは、コリカンチャ神殿が設定される過程に示されている。クスコの景観において表現された豊穡と王権のイメージに注目することで、この問題について検討してみたい。

コリカンチャ神殿は、クスコの主要水源であるワタナイ川の合流地点付近に建てられた。コリカンチャ神殿を設定する際に、その基準として、ワタナイ川の上流方向と下流方向が選ばれ、その方向にある山——ムユ・ウルコ山とアウサンガテ山——が目印として用いられた。このことは、クスコの自然景観の中で、特に豊穡のイメージを喚起させる存在として、ワタナイ川が注目されたことを意味する。つまり社会的景観が創造される第一段階で、豊穡のイメージが、クスコの景観に組み込まれたのである。

では、王権のイメージは、どのようにしてクスコの景観の中に取り込まれたのだろうか。王権の神話に登場し、王権の儀礼が行われた、ワナカウリ山とピチュ山について検討してみると、両山は、ワタナイ川の上流方向と下流方向にある山を基準にして、クスコの自然景観の中から選ばれたのである。つまり、コリカンチャ神殿が設定される前から、両山に関する王権の神話や儀礼があったのではなく、コリカンチャ神殿が設定される過程で、これらの山が注目されるようになり、その後、両山に関する王権の神話や儀礼が創作されたのである。そこで、王権のイメージがクスコの景観に組み込まれたのは、

社会的景観が創造される第二段階ということになる⁴⁾。

8. おわりに

本論の第一の目的は、インカ帝国の首都クスコにおいて、社会的景観が創造されるプロセスを明らかにすることである。第二の目的は、このプロセスに伴って、起源神話や儀礼が創作される過程を明らかにすることである。そのため、クスコの景観の中心を占めたコリカンチャ神殿および聖山に注目するとともに、これらの聖山が登場する起源神話と儀礼を検討した。

本論ではまず、クスコの景観構造に関する先行研究を整理し、次に、クスコ周辺にある山々のうち、インカ期に注目された聖なる山を取り上げ、それらにまつわる神話と儀礼について検討した。さらに、これらの聖山の配置を検討することで、クスコの景観構造の中心を占めたコリカンチャ神殿が、クスコの主要水源であるワタナイ川と聖山の配置によって設定されたことを明らかにした。またクスコの景観の特徴である、二分割構造および四分割構造も、聖山を基準に決められたことが分かった。聖山のうち、コリカンチャ神殿を設定する際に基準として用いられた4つの山には、豊穡と王権のイメージが付与されていることが、景観・神話・儀礼の分析によって判明した。豊穡儀礼によって、インカ王は豊穡をもたらす存在として自己を位置づけ、王権の正当化を計ったことが、先行研究 (Bauer 1996) によって明らかにされている。そこで豊穡と王権のイメージを、クスコの景観の中心であるコリカンチャ神殿に重ね合わせることによって、王権を正当化する装置として、クスコの景観を創造したのだと考えられる。

最後に、コリカンチャ神殿が設定される過程を詳細に検討することで、社会的景観の創造プロセスには2つの連続的な段階があることを明らかにした。つまり、コリカンチャ神殿が設定される際に、ワタナイ川の上流方向と下流方向にそびえる2つの聖山が選ばれ、次にこの2つの聖山を基準にして、王権の神話と儀礼に登場する2つの聖山が設定されたことが判明した。これによって、景観創造の第一段階では豊穡のイメージが組み込まれ、第二段階では王権のイメージが組み込まれたことが明らかになった。そこで、王権に因んだ起源神話と儀礼は、景観創造の第二段階に伴って創作されたことになる。

起源神話にインカの歴史意識が如実に現れていること考慮すると、これまで議論してきた景観創造のプロセスこそが、インカにおける歴史意識の形成過程だと言うことができるのではないだろうか。

今後の課題として、以下の点が挙げられる。

- (1) インカの起源神話は、少なくとも35人の年代記作家によって言及され、その内容に差異が見られる。しかし本論では、その中の代表的な資料 (Betanzos 1987 [1551-7]; Cieza de León 1995 [1553]; Cobo 1956 [1653]; Molina 1989 [ca.1575]; Sarmiento 1988 [1572]) を中心に

分析したにすぎない。今後、起源神話を網羅的に比較することによって、起源神話と景観の関係について再検討したいと思う。

- (2) クスコ周辺には、本論で扱った以外の聖山がある。これらの山の特徴を分析することで、クスコの景観について再検討したいと思う。
- (3) 本論では、主に地図を使って、コリカンチャ神殿と聖山の配置を分析した。しかし、これらの配置を確定するためには、現地で測量することが不可欠である。
- (4) 本論で扱った山と川の配置を参考にすることで、クスコの礼拝所、道、灌漑水路の分布について分析したい。

注

- 1) インカ時代の聖山として、この他にパチャトゥサン (Pachatusan, Pachatopan) 山, シンカ (Cinca, Cinga) 山, ピコル (Pícol) 山を挙げるができる (Sarmiento 1988 [1572]: 96)。このうち、パチャトゥサン山は、クスコの中央広場の真東にそびえる山である。
- 2) 儀礼上の中心地点で二本の線が交差するという事例は、クスコ近郊のミスミナイ村の民族誌 (Urton 1982) にも見られる。ミスミナイ村では、二本の道と水路が、村の儀礼の中心である祠の位置で交差している。
- 3) 先行研究では、アンティ・スーユとコリヤ・スーユの境界を示す目印として、ワタナイ川 (Zuidema and Poole 1982) およびアウサンガテ山 (Pärssinen 1992) が想定された。
- 4) 社会的景観が創造される2つの段階について、インカの起源神話は示唆的である。起源神話の分析で、創造主ピラコチャはアウサンガテ山からクスコに入り、初代インカ王はワナカウリ山からクスコに入ったという対比が得られた。アウサンガテ山は、ワタナイ川の下流にそびえる山で、社会的景観が創造される第一段階で、クスコの景観に組み込まれた。一方、ワナカウリ山は第二段階で組み込まれた。起源神話では、創造主のクスコ入りは、初代王のクスコ入りに先立つ。そこで、インカの起源神話は、社会的景観が創造される第一段階と第二段階を、創造主と初代王という対比で表象していると解釈することができる。ただし、インカの起源神話は少なくとも35人の年代記作家によって記録され、その内容に差異が見られるので、上記の解釈を安易に受け入れることはできない。今後、様々なタイプのインカ起源神話を比較することによって、上記の解釈の妥当性を検討したい。

文献

Albomoz, Cristóbal de

1989 [ca.1582] Instrucción para descubrir todas las guacas del Pirú y sus camayos y haziendas. In Henrique Urbano y Pierre Duvilos (eds.) *Fábulas y mitos de los Incas* (Crónicas de América series), pp.162-198. Madrid: Historia 16.

Bauer, Brian

1996 The Legitimization of the Inca State in Myth and Ritual. *American Anthropologist* 98 (2), 327-337.

1998 *The Sacred Landscape of the Inca: The Cuzco Ceque System*. Austin: University of Texas Press.

2004 *Ancient Cuzco: Heartland of the Inca*. Austin: University of Texas Press.

- Betanzos, Juan de
1987 [1551-1557] *Suma y narración de los Incas*. Madrid: Ediciones Atlas.
- Cieza de León, Pedro de
1985 [1554] *Crónica del Perú: Segunda parte*. Lima: Fondo Editorial de la Pontificia Universidad Católica del Perú.
1995 [1553] *Crónica del Perú: Primera parte*. Lima: Fondo Editorial de la Pontificia Universidad Católica del Perú.
- Cobo, Bernabé
1956 [1653] *Historia del Nuevo Mundo*, Vol.4. Cuzco: Publicaciones Pardo-Galimberti.
- Espinoza Soriano, Waldemar
1977 Los cuatro suyos del Cuzco (Siglo XV y XVI). *Bulletin de l'Institut Français d'Études Andines* 5 (1-2), 85-95.
- Instituto Geográfico Nacional del Perú
1973 *Carta nacional, Perú*. 1:2,5000.
1984 *Carta nacional, Perú*. 1:100,000.
1996 *Plano de la ciudad de Cusco, Perú*. 1:10,000.
- MacCormack, Sabine
1991 *Religion in the Andes: Vision and Imagination in Early Colonial Peru*. New Jersey: Princeton University Press.
- Molina, Cristóbal de
1989 [ca.1575] Relación de las fábulas y ritos de los Incas. In Henrique Urbano y Pierre Duviols (eds.) *Fábulas y mitos de los Incas* (Crónicas de América series), pp.47-134. Madrid: Historia 16.
- Pärssinen, Marti
1992 *Tawantisuyu: The Inca State and its Political Organization* (Studia Historica 43). Helsinki: Societas Historica Finlandiae.
- Polo de Ondegardo, Juan
1916 *Informaciones acerca de la religión y gobierno de los Incas* (Colección de Libros y Documentos Referentes a la Historia del Perú, Tomo 3). Lima: Sanmartí.
1917 *Informaciones acerca de la religión y gobierno de los Incas* (Colección de Libros y Documentos Referentes a la Historia del Perú, Tomo 4). Lima: Sanmartí.
1940 [1561] Informe del licenciado Juan Polo de Ondegardo al licenciado Briviesca de Muñatones sobre la perpetuidad de las encomiendas en el Perú. *Revista Histórica* 13:125-196.
- Rowe, John H.
1985 La constitución de los adoratorios del antiguo Cuzco. *Histórica* 9 (1), 35-73.
- 坂井正人
1996 「古代ナスカの空間構造——観測所, 山, 祭祀センター, 居住センター, 地上絵」『リトルワールド研究報告』13: 37-55。
1997 「図像と空間構造の系譜——古代アンデスにおける情報の統御システムをめぐって」『精神のエクスペディション』pp.216-225, 東京: 東京大学出版会。
2003 「チムー王都の空間構造——先スペイン期アンデスにおける情報の統御システム」角田文衛, 上田正昭監修, 初期王権研究委員会編『古代王権の誕生 東南アジア・南アジア・アメリカ大陸編』pp. 247-265, 東京: 角川書店。
- Sakai, Masato
1998 *Reyes, estrellas y cerros en Chimor: el proceso de cambio de la organización espacial y temporal en Chan Chan* (Arqueología e Historia 11). Lima: Editorial horizonte.

Sarmiento de Gamboa, Pedro

1988 [1572] *Historia de los Inca*. Madrid: Miraguano Ediciones y Ediciones Polifemo.

Sherbondy, Jeanette

1982 *The Canal Systems of Hanan Cuzco*. Ph.D. Dissertation, University of Illinois. Ann Arbor: University Microfilms International.

Urton, Gary

1982 *At the Crossroads of the Earth and the Sky: An Andean Cosmology*. Austin: University of Texas Press.

1990 *The History of a Myth: Pacariqtambo and the Origin of the Inkas*. Austin: University of Texas Press.

Van de Guchte, Maarten

1990 *Carving the World: Inca Monumental Sculpture and Landscape*. Ph.D. Dissertation, University of Illinois. Ann Arbor: University Microfilms International.

Zuidema, Tom

1964 *The Ceque System of Cuzco: The Social Organization of the Capital of the Inca* (International Archives of Ethnography, supplement to vol.50). Leiden: E. J. Brill.

1989 *Reyes y guerreros: Ensayos de cultura Andina*. Lima: Fonciencias.

1990a *Inca Civilization in Cuzco*. Austin: University of Texas Press.

1990b Ceques and Chapas: An Andean Pattern of Land Partition in the Modern Valley of Cuzco. In Bruno Illius and Matthias Laubscher (eds.) *Circumpacifica: Festschrift für Thomas S. Barthel*, pp.627-643. Sonderdruck: Peter Land.

Zuidema, Tom and Deborah Poole

1982 Los límites de los cuatro suyus Incaicos en el Cuzco. *Bulletin de l'Institut Français d'Études Andines* 2 (1-2), 83-89.

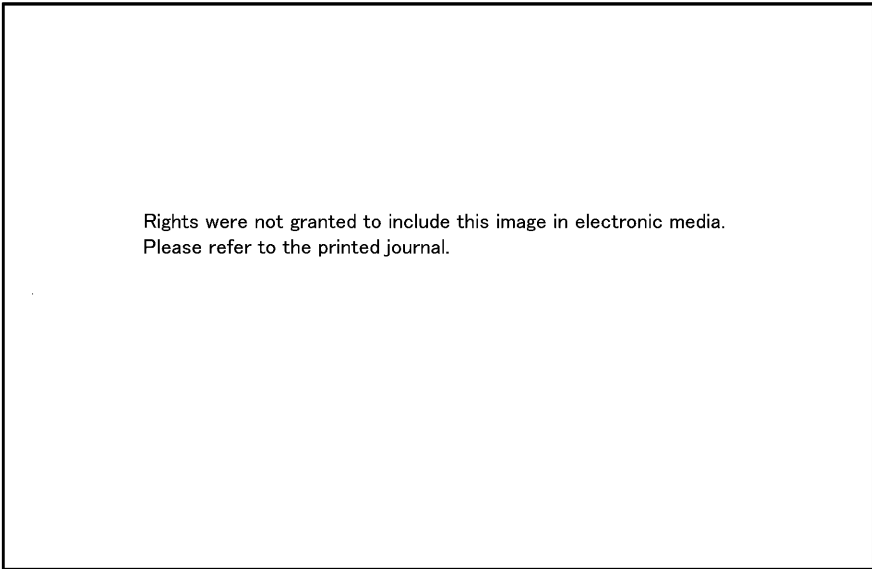


図1 首都クスコにおける空間構造の概念図

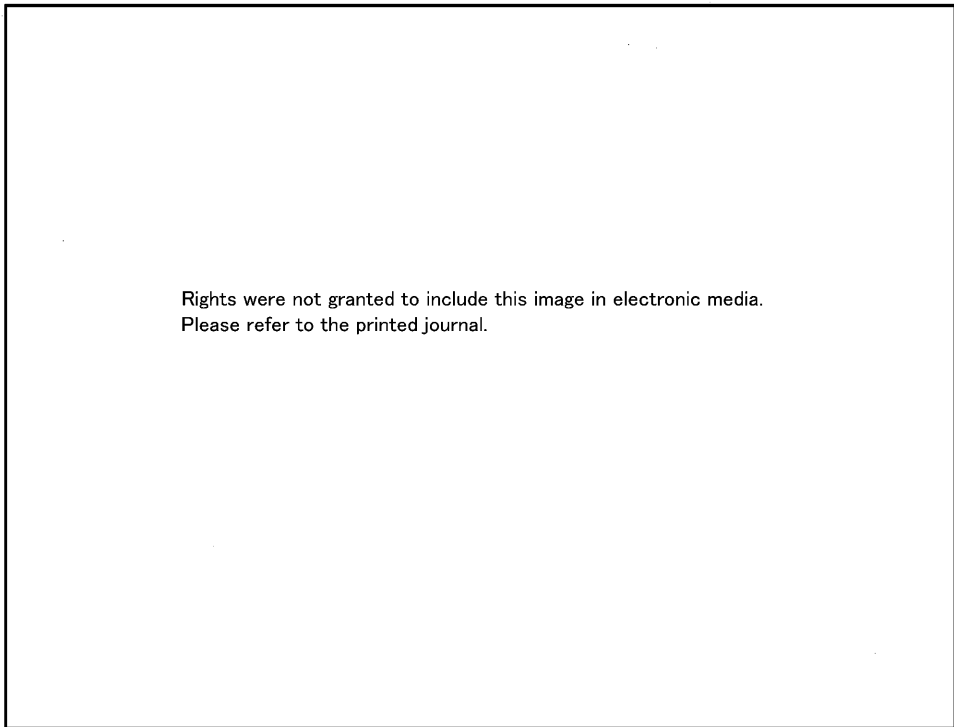


図2 首都クスコの主要建築物 (Bauer 1998: Map1. 2. を改変)

Rights were not granted to include this image in electronic media.
Please refer to the printed journal.

図3 首都クスコおよび周辺部における礼拝所の分布 (Bauer1998: Map11. 1. を改変)
◎太陽神殿コリカンチャ, ①ムユ・ウルコ山, ②ワナカウリ山, ③ピチュ山
Ch: チンチャイ・スーユ, An: アンティ・スーユ, Co: コリヤ・スーユ, Cu: クンティ・スーユ
1~14はセケ (Ceque) の番号。

Rights were not granted to include this image in electronic media.
Please refer to the printed journal.

図4 太陽神殿の設定法とクスコ周辺の聖山

●太陽神殿コリカンチャ, ①ムユ・ウルコ山, ②ワナカウリ山, ③ピチュ山, ④アウサンガテ山, ⑤カトゥンケ山, ⑥アナワルケ山

Rights were not granted to include this image in electronic media.
Please refer to the printed journal.

図5 首都クスコの4分割と聖山

●太陽神殿コリカンチャ, ③ピチュ山, ④アウサンガテ山, ⑤カトゥンケ山, ⑥アナワルケ山